

ドイツ語海外短期語学留学プログラムの実施報告

－ 第2回から第9回をふりかえって－

古本 裕美*

清水 佑樹**

林田 翔子**

キーワード：フライブルク大学、短期留学、満足、困難点、ドイツ語、英語

1. はじめに

長崎大学海外短期語学留学プログラムは、本学の第1期中期計画（平成16年度～平成21年度）の一つであった「学術交流協定をより実効性のあるものにするため、教職員や学生の海外派遣・留学を支援するための制度を確立する」という方策のもとに実施が決定されたプログラムである（嶋津・仲井, 2010）。ドイツ語のプログラムは2009年8月に始まり、2017年度で第9回を迎えた。本稿では、2010年度（第2回）以降の本プログラムの実施を振り返り、2014年度（第6回）から始めた研修後アンケートの内容を分析する。そして、本プログラムに見られる特徴を探索的に検討し、報告する。

2. 本プログラムの概要

2-1. 教育機関と研修内容

長崎大学のドイツ語海外短期語学留学プログラムでは、2009年度の第1回から、ドイツ連邦共和国にあるフライブルク大学語学教育センター（Sprachlehrinstitut（以下、SLI）der Albert-Ludwigs-Universität Freiburg）の「ドイツ語とドイツ文化コース（German Language and Culture）」に、毎年8月か9月に学生派遣を行ってきた。ここ数年は、8月のコース日程が本学の前期試験の実施期間と重なるため、9月のコースへの参加を勧めている。いずれの月のコースも約4週間の研修期間で、月曜日から金曜日まで毎日午前中に授業が行われる。

本学の学生が参加するコースは、長崎大学以外の学生も参加するコースで

あり、2017年9月のコースには名古屋大学、上智大学、立命館大学等からの学生も参加していた。加えて、韓国、台湾、アメリカ、イギリス、イスラエル、ブラジル、ヨルダン等からも同コースに参加していたそうである。2017年度については、表1のように授業や課外活動が提供された。

表1 SLIが提供する「ドイツ語とドイツ文化コース」の構成

午 前	計72校時のドイツ語の授業（4校時×18日間、1校時の授業は45分）
午 後	オプション・レッスン 例：ドイツ語や地域・文化に関する演習、セミナー、講義
放 課 後	レクリエーション・プログラム 例：シティ・ツアー、ハイキング、お店巡り、サッカー
週 末	有料のエクスカージョン 例：フランス旅行、シュヴァルツヴァルトの村見学

ドイツ語の授業については、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1、A2、B1、B2、C1に加えて、初心者の計6つのレベルがある。現在は、クラス開講前に参加者個人がオンラインでプレイスメント・テストを受け、その結果に基づいて各自レベルに合ったクラスに配置されるようになっている。クラスサイズは、それぞれ18名以下に設定されている。

2-2. 単位認定

長崎大学では、教養教育の初習外国語の科目として、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の4言語が開講されている。各言語、

IからIVのレベルがあるが、ドイツ語以外については上級レベルの科目も教養教育の自由選択科目として開講されている。

ドイツ語の海外短期語学留学プログラムは、基本的に、本学で「ドイツ語



図1 フライブルクの位置
(Map by d-maps.com)

Ⅲ」を履修し終えた学部生が参加する。多くの場合、学部2年生である。派遣が決まった学生は、先述したように、プログラム開講前に、フライブルク大学 SLI が指定するプレイスメント・テストを個人受験する。その結果、A1 レベル以上のクラスへの参加が認められ、そこで一定の成績を修めた学生に限り、本学の「ドイツ語Ⅳ」の単位が認定されることになっている。

2-3. 事務的な手続き

本学ドイツ語短期語学留学プログラムには、本学の他言語での短期語学留学プログラムとは異なる特徴がいくつかある。まず、学生を派遣するフライブルク大学は、長崎大学とは学術交流協定は結ばれていない。フライブルク大学の SLI が研修先に選ばれた経緯については、嶋津・仲井（2010）を参考にされたい。

特徴の2つ目は、参加学生個人が責任もって行わなければならない手続きがいくつか存在することである。具体的には、参加が決定した後、まず学生は、個人で「ドイツ語とドイツ文化コース」への参加を SLI のウェブサイトで申し込まなければならない。その後、受講料の支払い、航空券の手配、パスポートの取得、海外旅行傷害保険への加入等を約3ヶ月の間に行うことになっている。このプログラムへの参加が初めての海外渡航となる学生も少なくなく、そういった学生の場合、負担も大きいと想像される。しかし、主体的かつ計画的に各手続きを終えることで養われる側面や達成感も大きい。

特徴の3つ目は、本プログラムでは本学教職員が引率しないということである。引率者がいなくても安全かつ確実に本プログラムを実施する態勢を整えるようにしている。まず、日本出国前に、プログラム説明会と参加者オリエンテーションが行われる。後者のオリエンテーションでは、フライブルク大学 SLI までの行き方や持参物の提案といったことに加え、緊急時の対処法や連絡先についても時間をかけて説明を行っている。また、外務省の「たびレジ」への登録や、「留学生危機管理サービス（OSSMA）」への登録も呼びかけている。学生が日本を出国した後は、本学国際教育リエゾン機構の事務職員が e-mail や LINE グループを通して、安否情報の確認やサポートを行っている。フライブルク大学 SLI には、日本人スタッフや日本語が分かる語学教師がいるため、参加学生に何か生じた時は、日本語でサポートを求めることもできる。

2-3-1. 渡航方法

本プログラムへの参加が決まった後、学生は個人で飛行機の手配を行う。多くの学生が6月から7月の間に航空券の予約を行っており、利用航空会社、飛行ルート、航空運賃は様々である。本研修の前後にヨーロッパを旅行する学生も少なくない。

2-3-2. フライブルクでの宿泊

本プログラムに参加する学生は、フライブルク大学 SLI が提供する学生寮またはプライベートの共同住居に宿泊する。宿泊施設は複数あり、それらの築年数、大きさ、設備、立地は様々である。学生にはそれぞれ個室が与えられるが、台所、シャワー室、トイレ、場合によってはリビングルームは、フラットメイトとの共用になる。宿泊施設はいずれも男女混合で、ルームメイトが異性になることもある。

3. 研修後アンケートの分析

3-1. プログラム参加学生

2009年度（第1回）から2017年度（第9回）までの、本学ドイツ語海外短期語学留学プログラムに参加した学生数と研修費用（受講費＋宿泊費）を図2に示す。2016年度以降、フライブルク大学 SLI の方で長崎大学からの受入人数に10名という上限が設けられたため、参加希望者が10名を超えた場合

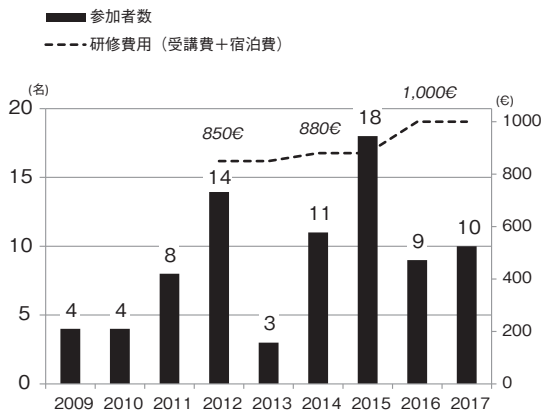


図2 プログラム参加者数と研修費用の推移

は、前年度の個人別成績（GPA）及び個人別外国語科目成績（GPA）に基づいて本学で派遣学生の選考が行われている。本章では、2014年度から始めた研修後アンケートの結果を対象とし、分析を行う。

3-2. 分析方法

研修後アンケートの回収率は97.92%であった。表2に、研修後アンケートの質問項目と回答形式を示す。2016年度から2017年度は、すべて同じ質問項目と回答形式がプログラム参加者に与えられた。本アンケートを始めた2014年度は、学習面と生活面を2つに分けずに、全体的な満足度を評定法で求めた後、学習面と生活面それぞれの感想を自由記述する形式でアンケート用紙が作成されていた。

自由記述の内容分析には、テキストマイニング用ソフトウェア「KH Coder」を用いた。「KH Coder」は、語の選択にあたり恣意的となり得る手作業を廃し、多変量解析によってデータ全体を要約・提示することと、コーディング規則を公開するという手順を踏むこととによって、操作化における自由と、分析における客観性の両方を可能にできるフリーソフトウェアであ

表2 研修後アンケートでの質問項目と回答形式

学 習 面	1. 今回のドイツ語研修の満足度とその理由を教えてください。	大いに満足 ほぼ満足 普通 やや不満 不満 【理由】	評定 (5件法) 自由記述
	2. 授業で良かったことは何ですか。		自由記述
	3. 授業で嫌だったことや困ったことは何ですか。		自由記述
	4. もっとドイツ語を学んでみたいと思いますか。		単一回答
生 活 面	5. 今回のドイツ語研修の満足度とその理由を教えてください。	大いに満足 ほぼ満足 普通 やや不満 不満 【理由】	評定 (5件法) 自由記述
	6. 授業以外（放課後、旅行）で良かったことは何ですか。		自由記述
	7. 授業以外で嫌だったことや困ったことは何ですか。		自由記述
	8. 寮で良かったことは何ですか。		自由記述
	9. 寮で嫌だったことや困ったことは何ですか。		自由記述

る（越中ほか，2015；樋口，2014）。

3-3. 結果と考察

3-3-1. 評定法による満足度の分析

(1) 2014年度（第6回）の全体的な満足度について

2014年度の参加者11名に5件法でプログラム全体の満足度を尋ねたところ、「普通／やや不満／不満」を選んだ参加者はいなかった（図3）。

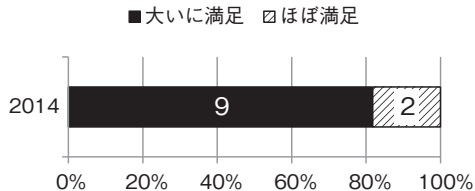


図3 2014年度の参加者のプログラム全体の満足度

(2) 2015年度（第7回）から2017年度（第9回）の学習面について

2015年度から2017年度までの参加者37名のうち、回答が得られた36名の学習面での満足度を図4に示す。ここでは、「やや不満／不満」を選んだ回答者はいなかった。各セルの数値が低いため、今回は統計処理を行わなかったが、例年に比べ、2016年度は「ほぼ満足」を選んだ学生が多いように見える。

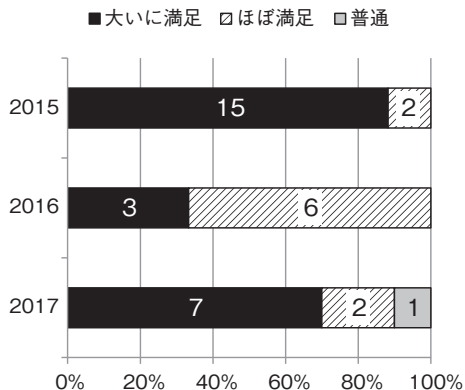


図4 2015年度から2017年度までの参加者の学習面の満足度

(3) 2015年度（第7回）から2017年度（第9回）の生活面について

2015年度から2017年度までの参加者37名のうち、回答が得られた計36名の生活面での満足度を図5に示す。「学習面」での評価同様に、「やや不満／不満」を選んだ回答者はいなかったが、2016年度と2017年度は「ほぼ満足」を選んだ学生の割合が多く、2015年度での結果とは異なるように見える。

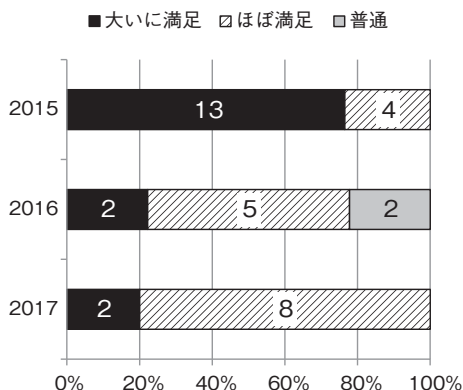


図5 2015年度から2017年度までの参加者の生活面の満足度

3-3-2. 自由記述法による満足度の分析

(1) 学習面について

2014年度から2017年度までの参加者47名から得られた計78文の学習面についての自由記述を対象に、どのような言葉が多く出現していたかについて分析を行った。上位21位までの24単語と、その出現回数を表3に示す。

肯定的な語である「楽しい」と「良い」がどのような文脈で使われているかについて検索したところ（表4）、授業が理解できて「楽しい」と感じたり、授業を担当する教員が優しくて「楽しい」と感じたりしていることが明らかになった。また、ドイツ語に触れる機会の多さや、身についたことの多さについて「良い」と感じたり、クラスメイトや教員、フライブルク住民の人柄について「良い」と感じたりしていることが分かった。

2016年度に「学習面」に対する満足度が低くなった原因を探るため、2014年度と2015年度、2016年度と2017年度で2つのグループに分け、「授業で良かったこと」と「授業で嫌だったり、困ったりしたこと」についての自由記述を頻出語の観点から分析した。

表3 47名分の学習面の自由記述における頻出語

順位	語	出現回数	順位	語	出現回数
1	ドイツ語	28	14	外国	7
2	授業	24		日本	7
3	先生	22		優しい	7
4	分かる	18		話す	7
5	クラス	11	18	最初	6
	人	11		自分	6
7	楽しい	10		勉強	6
8	学習	9	21	レベル	5
	教える	9		少し	5
	良い	9		上がる	5
11	英語	8		身	5
	会話	8			
	学ぶ	8			
分析に使用された総抽出語数					689
分析に使用された異なり語数					260

表4 自由記述での「楽しい」と「良い」という語の使われ方

楽しい	<ul style="list-style-type: none"> ・授業も楽しい。 ・楽しい授業をしてくれた。 ・クラスを下げたり、授業についていけなかったが、クラスメイトに助けられながら楽しく授業を受けることができた。 ・A1クラスのレベルも合っていて、先生もクラスメイトもすごく良い人だったので楽しかったです。半分くらい日本人がいたので、分からなくても聞けたので、授業が本当に楽しかったです。 ・周りが全員外国の人だったのでコミュニケーションに苦労したが、とても有意義だった。新鮮な環境で楽しく授業を受けられて良かった。 ・先生がドイツ人の女の先生だったけど、優しくかつ、日本語を覚えようとしていて、楽しい授業だった。 ・全く分からなかったドイツ語が少し分かるようになった。楽しいなと思えるようになった。 ・先生も優しく、クラスメイトも良い人ばかりで楽しかった。 ・先生はとても親切で丁寧だったので、授業がとても楽しかった。
-----	---

良い	<ul style="list-style-type: none"> ・日本でオンラインテストを受けて現地でのクラスが決められるのですが、私はA2で下から2番目のクラスでとても不安でしたが、先生は各クラスに合った授業をしてくださったので、とても充実した1か月で、とても良い環境でドイツ語を学ぶことができました。 ・生活で必要になると、ずっとドイツ語に触れられるので、とても学習効果があった。英語が通じない場がフライブルクでは多かったので、ドイツ語を覚えて使う、良い訓練になった。特に、日本にいとどうしてもドイツ語の発音やイントネーションが短い時間なので分からなかったが、日常会話の長い話の中の流れや駅のアナウンス、友人の長い会話が直に聞け、また飛行機内でもずっとドイツ語に触れられるので、行きに比べ帰りはかなり耳が慣れてきた。授業でドイツ語の文のリズムをやってくれるので、(午後)良かった。 ・A1のクラスはレベルも合っていて、先生もクラスメイトもすごく良い人だったので楽しかったです。 ・基本的な動詞を知らずに苦労しました。身についたものが多くて、良かったです。 ・授業初日は、全てドイツ語で説明されることに驚いてしまい、クラスを下げてほしいと交渉するくらいだったが、そのままのクラス(自分のレベルより少し上)でたくさん挑戦できた分、得る物が多く、良かった。 ・先生も優しく、クラスメイトも良い人ばかりで楽しかった。 ・フライブルクの場所も人も良く、とても快適に旅ができました。先生も良い人でした。
----	---

表5 授業で良かったことに関する自由記述での頻出語

2014-2015			2016-2017		
順位	語	出現回数	順位	語	出現回数
1	先生	15	1	先生	9
2	分かる	8	2	分かる	7
3	ドイツ語	6	3	授業	5
4	英語	5	4	楽しい	4
	人	5		教える	4
	優しい	5		日本語	4
7	コミュニケーション	3	7	優しい	3
	質問	3			
	授業	3			
	仲良く	3			
分析に使用された総抽出語数		178	分析に使用された総抽出語数		149
分析に使用された異なり語数		97	分析に使用された異なり語数		88
回答者数		28名	回答者数		19名

表6 授業で嫌だったり、困ったりしたことに関する自由記述での頻出語

2014-2015			2016-2017		
順位	語	出現回数	順位	語	出現回数
1	英語	9	1	分かる	8
2	分かる	8	2	英語	6
3	ドイツ語	6	3	クラス	4
4	会話	4		授業	4
	言う	4		日本人	4
	困る	4	6	先生	3
	授業	4		多い	3
	日本人	4			
9	自分	3			
	多い	3			
	聞き取れる	3			
	分析に使用された総抽出語数	146		分析に使用された総抽出語数	122
	分析に使用された異なり語数	71		分析に使用された異なり語数	64
	回答者数	20名		回答者数	13名

「授業で良かったこと（表5）」に関しては、2014-2015年度で「ドイツ語」と「英語」という語が上位に出てきているが、2016-2017年度ではそのような傾向は見られなかった。それら2つの語がどのような文脈で使われているかを検索したところ、2014-2015年度では、教員によるドイツ語での説明が分からない時に英語で説明してもらったことや、英語で周りの人とコミュニケーションがとれたことについて、良かったと感じていることが分かった。逆に、2016-2017年度の上位に見られる「楽しい」「教える」「日本語」という語の使用文脈を検索したところ、教員が日本語が話せたことや、分からない時にクラスメイトが日本語で教えてくれたことに対し良かったと感じていることが分かった。

「授業で嫌だったり、困ったりしたこと」については、2014-2015年度に「会話」「言う」「困る」という語が見られ、ドイツ語や英語での会話が上手く出来なかった時や、授業内外で相手が言っていることが分からなかった時に、困っていたことが分かった（表6）。また、両方に見られる「日本人」という語を検索したところ、どちらも共通して、クラスに日本人が多いことが嫌だったと指摘していたが、2016-2017年度についてのみ、「ドイツ語の

説明が分からない時に、日本人がクラスメイトにいることが心強かった」というコメントや、「他国からの学生の授業態度が日本人のものとは違うことに驚いた」というコメントが含まれていた。

これらの結果から、2014-2015年度と2016-2017年度とでは、参加者の留学動機や、外国で外国語を使用する意欲や不安の程度等が異なっており、それが学習面の満足度に対する違い（図4及び図5）を生じさせたのではないかと想像される。

それに加えて、2015年度から2016年度にかけて研修費用が880ユーロから1,000ユーロへと値上がりしていることも、満足度が以前のように高くなかった要因の一つとして考えられる。

(2) 生活面について

「特になし」と回答した者を除いた計42名から得られた計80文の学習面についての自由記述を対象に、どのような言葉が多く出現していたかについて分析を行った。上位14位までの22単語と、その出現回数を表7に示す。

ここでも、肯定的な意味をもつ「楽しい」という語がどのような文脈で使われているかについて検索したところ、フライブルク大学 SLI から提供されるレクリエーションや、フライブルク以外の街を観光できたことに対し、楽しかったと感じていることが分かった（表8）。フライブルクはドイツの

表7 42名分の生活面の自由記述における頻出語

順位	語	出現回数	順位	語	出現回数
1	寮	12	14	たくさん	4
2	人	11		スイス	4
3	楽しい	9		フライブルク	4
	行ける	9		ミュンヘン	4
5	ドイツ	8		硬水	4
	生活	8		行く	4
	良い	8		思う	4
8	日本	7		治安	4
9	水	6		多い	4
10	フランス	5			
	慣れる	5			
	自分	5		分析に使用された総抽出語数	534
	本当に	5		分析に使用された異なり語数	278

表8 自由記述での「楽しい」という語の使われ方

楽しい	<ul style="list-style-type: none"> ・寮のみんなと楽しく話げできたこと。 ・学校のツアーでフランスやヨーロッパパークなどに行くことができ、とても楽しかったからです。 ・めっちゃ楽しかった。多文化に触れられた。環境への適応を学んだ。 ・毎日楽しく行動することができた。いろんなところにも行けたので良かった。 ・大学がいろいろなアクティビティを準備してくれていて、楽しかった。自分たちでもいろいろな所に観光に行けて良かった。 ・昼以降はアクティビティに参加したり、友人とフランスやスイスに行けて、とても楽しかった。 ・ドイツでの生活はとても楽しかったです。 ・いろいろな所に行けて、とても楽しかった。 ・日本のように（うまく）いかないのは当たり前だし、現地での生活を自分の肌で実感できる楽しさがとても大きかった。
-----	--

南西部に位置し、フランスやスイスに近い。学生たちは、レギオカルテ (Regio Karte) という公共交通機関の定期券を使い、スイスのバーゼルをはじめ、いろいろな街を訪れたようである。この点は、フライブルク大学に留学する利点の一つだと言えよう。

それではなぜ、2016年度と2017年度の「生活面」に対する満足度が低くなったのかを探るため、2014年度と2015年度、2016年度と2017年度の2つのグループに分け、「授業以外（放課後、旅行）で良かったこと／嫌だったり、困ったりしたこと」と「寮で良かったこと／嫌だったり、困ったりしたこと」に

表9 授業以外で良かったことに関する自由記述での頻出語

2014-2015			2016-2017		
順位	語	出現回数	順位	語	出現回数
1	行ける	15	1	行ける	10
2	スイス	12	2	スイス	9
	フランス	12	3	フランス	6
4	行く	6	4	旅行	5
5	ドイツ	4	5	ドイツ	4
	ミュンヘン	4		放課後	4
	旅行	4		良い	4
	分析に使用された総抽出語数	179		分析に使用された総抽出語数	169
	分析に使用された異なり語数	92		分析に使用された異なり語数	99
	回答者数	29名		回答者数	19名

ついでに自由記述を頻出語の観点から分析した。

表9から表12に見られる結果を概観すると、良かったことに関してはさほど違いが見られないが、困ったことや嫌だったことに関しては、2014-2015年度の方が、語の種類が多く、その年度での参加者がいろいろな時間の使い方をしていたことが分かる。表7のデータと合わせて分析したところ、2014年度と2015年度の参加者は、留学中にマイナス面も含めていろいろ体験したが、その分、(1)多くのアクティビティに参加し、いろいろな体験ができた、(2)多くの人に会い、友人がたくさんできた、(3)ルームメイトやク

表10 授業以外で嫌だったり、困ったりしたことに関する自由記述での頻出語

2014-2015			2016-2017		
順位	語	出現回数	順位	語	出現回数
1	お金	3	1	ドイツ	3
	チケット	3	2	使える	2
	トイレ	3		電車	2
	手配	3		日本人	2
	切符	3			
6	バス	2			
	ユーロ	2			
	英語	2			
	駅	2			
	会社	2			
	現地	2			
	詐欺	2			
	時間	2			
	授業	2			
	出る	2			
	場所	2			
	親	2			
	電車	2			
	怖い	2			
	分かる	2			
友達	2				
料理	2				
分析に使用された総抽出語数	193		分析に使用された総抽出語数	88	
分析に使用された異なり語数	135		分析に使用された異なり語数	70	
回答者数	19名		回答者数	12名	

表11 寮で良かったことに関する自由記述での頻出語

2014-2015			2016-2017		
順位	語	出現回数	順位	語	出現回数
1	フラットメイト	11	1	ルームメイト	8
2	優しい	9	2	親切	3
3	広い	4		優しい	3
	部屋	4	4	教える	2
5	きれいな	3		使える	2
	キッチン	3		多い	2
	一緒	3		部屋	2
	寮	3			
	料理	3			
	分析に使用された総抽出語数	148		分析に使用された総抽出語数	76
	分析に使用された異なり語数	86		分析に使用された異なり語数	57
	回答者数	29名		回答者数	15名

表12 寮で嫌だったり、困ったりしたことに関する自由記述での頻出語

2014-2015			2016-2017		
順位	語	出現回数	順位	語	出現回数
1	風呂	5	1	汚い	4
	分かる	5		少し	4
3	シャワー	4	3	シャワー	3
	人	4	4	Wi-Fi	2
	電気	4		狭い	2
	部屋	4		掃除	2
7	キッチン	3		風呂	2
	トイレ	3			
	汚い	3			
	最初	3			
	洗濯	3			
	入る	3			
	寮	3			
	分析に使用された総抽出語数	202		分析に使用された総抽出語数	84
	分析に使用された異なり語数	124		分析に使用された異なり語数	65
	回答者数	26名		回答者数	16名

ラスメイトとたくさん話げできた、という経験を得ることができた。それが、彼らの生活面での満足度の高さにつながった可能性が考えられる。

3-3-3. 単一回答法による学習意欲の分析

第2章で述べたように、長崎大学では、ドイツ語の科目はIからIVのレベルしかないため、本プログラムで「ドイツ語IV」の単位認定がなされた場合、本学で学べるドイツ語科目はもうそれ以上ないという状況になる。すなわち、本プログラムでの学習が、本学におけるドイツ語教育の「最終段階」となる（嶋津・仲井，2010）。そこで、2016年度以降、プログラム参加後のドイツ語学習の継続意欲について尋ねることにした。

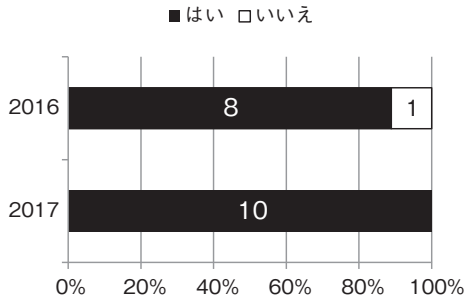


図6 ドイツ語の学習継続意欲

2016年度と2017年度でのみ、「もっとドイツ語を学んでみたいか」についての質問を与え、回答させたところ、図6の結果になった。2016年度で「いいえ」と答えた1名の学生は、その理由として「ドイツ語より英語の方が大切だと思った」と述べている。ドイツ語の研修であるが、そこで英語学習の重要性を感じたという回答は、同じフライブルク大学 SLI のプログラムに参加した学習院大学の学生からも得られている（加藤・狩野，2009）。母語が異なる教員がそのクラスの目標言語を用いて説明を行い、それを学習者が理解できない時には、共通言語である英語を用いて説明がなされる。また、寮のルームメイトがドイツ人学生の場合、ドイツ語と英語を用いてコミュニケーションがなされるようである。そのような場面で英語を用いて意思疎通ができなかった時に、英語学習の重要性を改めて感じるようである。

上記1名以外は、自学自習でドイツ語を学びたい、もう一度ドイツに留学したい、ドイツ語母語話者との会話やメールのやりとりを通して学びたいと

回答していた。なお、新しく「ドイツ語Ⅴ」の科目を開講してほしいという回答は得られなかった。

2016年度に、本プログラム参加者と本学に留学しているドイツ人留学生との交流の機会を作ろうと試みたが、プログラム参加者、すなわち日本人学生の方が都合がつかず、開催には至らなかった。学部2年生の後期になると、授業、アルバイト、部活動等で忙しく、かつ、ドイツ人留学生が集まりやすい文教キャンパスに来る機会も減るため、それらを上手く調整してまで、ドイツ人留学生とドイツ語で交流したいという気持ちにはならなかったようである。

4. おわりに

本稿では、長崎大学ドイツ語海外短期語学留学プログラムの2010年度以降の本プログラムの実施を振り返り、2014年度以降から始めた研修後アンケートの内容を分析した。

過去4回のアンケートでは、本プログラムの全体、学習面、生活面について、低い評価を得たことは一度もなかった。参加者の自由記述に現れる語を分析したところ、ドイツ語環境で英語を使ってコミュニケーションをとることに對し積極的な学生と消極的な学生との間で、本プログラムでのドイツ語学習に対する満足度が異なる可能性が推察された。また、困難な経験をしながらも授業外の活動に積極的に参加した学生、その地でのルームメイトやクラスメイト等との交流を楽しんだ学生、外出や観光で休日を満喫した学生については、生活面での満足度が高い可能性が示された。

さらに、本プログラムに参加した学生がドイツ語やドイツ、ヨーロッパの面白さを再認識し、自学自習でドイツ語学習を継続させる可能性が示された。それに加えて、今回は、半年や1年というより長い期間で、ドイツに再度留学に行くという可能性も考えられる。2016年度は失敗したが、学内での日本人学生とドイツ人留学生との交流の機会を設ける試みは、続けていきたい。そうすることで、双方の外国語の学習意欲の維持や、多文化・多様性への理解、そして、日本人学生の留学への足掛かり、留学生の日本での留学生活の充実へとつながると考えられるからである。

先述したように、本学からフライブルク大学 SLI への派遣人数には制限があるため、希望する全ての学生を派遣できず、それは大変残念なことであ

る。そのためにも、本学でドイツやドイツ語に興味がある人々が授業外に集える機会があることは、大変有意義なことであり、それには大学によるきっかけづくりが重要になってくる。現在、長崎大学では、ドイツの6つの大学と学生交流の覚書を締結しており、ここ数年、ドイツ人留学生の受入れも見られるようになった。彼らのサポートを得ながら、交流の場を作る努力を続けたい。

参考文献

- 越中康治・高田淑子・木下英俊・安藤明伸・高橋 潔・田幡憲一・岡 正明・石澤公明 (2015) 「テキストマイニングによる授業評価アンケートの分析－共起ネットワークによる自由記述の可視化の試み－」『宮城教育大学情報処理センター研究紀要』22号, 67-74.
- 樋口耕一 (2014) 『社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－』ナカニシヤ出版
- 加藤耕義・狩野智洋 (2009) 「フライブルク大学『日本人学生のためのサマープログラム－ドイツ語とドイツ文化－』視察報告」『言語・文化・社会』7号, 141-151.
- 嶋津 拓・仲井幹也 (2010) 「海外短期語学留学プログラムの課題－長崎大学第1回ドイツ語短期留学プログラムをふりかえって－」『長崎大学留学生センター紀要』18号, pp. 27-34.

地図素材

ドイツ/Bundesrepublik Deutschland

<<http://d-maps.com/m/europa/germany/allemanne/allemanne11.gif>>

(2018年4月10日)

(*国際教育リエゾン機構准教授、**国際教育リエゾン機構事務職員)